

2-⑥竹仁のえんがわ

地域を学ぶ	○	地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	学習・活動内容
令和元年 4月23日（水）	①「腰痛体操」 竹仁出身者の介護従事者であり、整体インストラクターでもある方を講師に迎えて体操をした。
5月14日（火）	②「いざという時のAED・救命救急講座」 東広島市消防署北分署の方から心肺蘇生やAEDの使い方についての講義を聴き、参加者全員が体験した。 ※市の「生涯学習まちづくり出前講座」を活用
6月11日（火） 11月12日（火） 令和2年 1月14日（火）	③「『認定こども園だけに』の子どもたちがやってくる！」 地域内にある認定子ども園の子どもたちが、歌や踊り、発表会で披露した創作劇や、住民自治協議会がプレゼントした“竹太鼓”の演奏（地元の祭りで披露したもの）などを上演した“ふれあいの時間”では曲に合わせて一緒に踊ったり、肩を揉み合ったりした。 11月には認定子ども園で学んでいる「お茶のお点前」を披露してくれ、参加者全員にお抹茶を点でて出してくれた。
7月9日（火） 12月10日（火） （12月は⑤のみ）	④「避難行動体験VR『土砂災害』体験」 平成30年に豪雨被害に遭った地区の疑似体験をし、いざというときの避難行動について学習した。 ※東広島市役所危機管理課持ち込み企画 ⑤「のびのび体操」 竹仁出身者の保健師でもあり3B体操インストラクターでもある方を講師に迎え、身体を伸ばす体操を実施した。
8月6日（火）	⑥「はじめてのベタンク」 東広島市が推奨するニュースポーツ「ベタンク」を、福富町内の他センター職員の応援も借りて参加者全員が体験した。
9月10日（火）	⑦「かみかみ100歳体操」 口腔体操を体験をした。講師の歯科衛生士に歯みがき指導もしてもらった。 ※東広島市国保年金課が年度内2会場で実施予定の公募に応募し企画
10月8日（火）	⑧「骨粗しょう症予防体操」 高齢者向けの体操を実施した。 ※東広島市健康増進課の体育指導員の派遣を依頼
令和2年 2月4日（火）	⑨「みんなで支えあいながら、認知症予防」 JA広島中央福富支店の協力で、作業療法士の方から講義を受けた。
※ 平成28年度から毎月第二火曜日（以前は月曜日）に開催。 ※ 毎月冒頭に駐在さんからその月に地域であった事件や事故、詐欺の手口などの話をしてもらう。 ※ 住民が気軽に相談できるように毎回、社会福祉協議会の方が参加してくれている。運営を手伝ってくれたり、何か情報があれば伝えてくれたり、いい講師の情報もくれたりしている。	



対象	竹仁地域全住民（平日なので必然的に高齢者）※毎回40名程度参加
経費	参加費無料 市の地域づくり推進交付金のうちの「生活・サロン・交通部会」の部会費から支出
連携先	東広島市役所（生涯学習課・地域づくり推進課・健康増進課・危機管理課・国保年金課・地域包括ケア推進課・福富支所）、東広島消防署北分署、認定こども園だけに、東広島市社会福祉協議会福富支所、北部地域包括支援センター、東広島警察署（福富駐在所）、JA広島中央福富支店・金融共済管理部 他

問合せ先	住民自治協議会 福に富む郷竹仁 〒739-2301 東広島市福富町下竹仁501-11 竹仁地域センター内 電話&ファクシミリ：082-435-2301
------	---

2 講座設定の理由（学習の目的）

- 平成 27 年に広島県社会福祉協議会から「そこに行けば誰かがいて何とかなる」という高齢者の「通い場」となる「お茶の間サロン」という事業を推奨されたのがきっかけである。28 年 4 月から月に 1 度、地域の中心にある場所に“竹仁のえんがわ”（名前は地域住民に公募。人が集う中で生まれる「縁」と「円」、また家の外と中をつなぐ「えんがわ」という存在でありたい、との想いから決定）を作り、77 歳以上の独居高齢者が全住居の 4 割近くを占める当地区の課題解決を狙ったものである。

3 学習目標

- 心も身体もいつまでも健康である「健康寿命」を延ばすこと。
- 社会へ関心を持ち続け、「自助・公助・共助」をいつまでも自らが行えること。

4 事前に必要な知識や準備物

- 参加する人が何を知りたいか、何をしたら嬉しいかについて常に耳を傾ける。
- 連携各部署、団体等と調整する。（2 か月前には確定）
- 昼食に毎回カレーを出すので、材料の買い出しや副菜（主にデザート）のメニューを決める。
- 準備物が必要な時には手配する。（歯みがき指導の歯ブラシ、タオル体操のタオルなど）
- 昼食準備と会場設営のため、おおまかな人数を把握する。
- 各戸配布の広報作成をする。

5 留意点

- 昼食に関する衛生管理や火の管理をはじめ、毎回「事故なく安全に」を意識している。
- 初めて参加した人が「次も参加したい」、「参加してよかった」と思えるような雰囲気づくりを行う。
- 集団の中で孤立させない気配りをする。

6 成果

- 「毎月第 2 火曜日は住民が集まって何かをする」が地域内外に定着してきているため、「その場で何か講演や講習などをさせて欲しい」と市の部署や団体が声を掛けてくれるようになった。
- 駐在さんと社会福祉協議会の職員は毎回、包括支援センター員は時々参加してくれているため、地域内で発生している困りごとや注意点を知ることができるとともに、心配ごとを相談しやすくなっている。

7 課題

- 「高齢者しか参加しない」とのイメージがついており、それ以外の年齢層は「自分は対象外」だと思っている傾向がある。
- 自動車でないと来館が難しいため、運転免許証を返納した方など「参加したくても参加できない」方もいる
- 男性の参加率が低い（1 割～2 割程度）。

8 今後に向けて

- 自治協の活動が基本的にボランティアで運営されているため、ボランティア世代の高齢化と地域センターや連携部署、団体の職員の交代があっても、同水準で事業を持続させる手立てを考える必要がある。
- 「モデル事業」との評価を頂いており、事業として仕上がってきているが、これからは世代間との意識の差やニーズにどこまで対応していけるのかを考えていく必要がある。